

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第10回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

・新潟大学堀籠ゼミ“さとまる電鉄”の活動報告

（2）協議（公開）

自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について

・「(仮称)さとまるバスの運行による検証事業」について

・「子どものい〜場所開設事業」について

令和6年度中郷区地域協議会活動報告会について

（3）その他（公開）

中郷区協議会だよりの発行について

3 開催日時

令和7年1月27日（月） 午後6時から午後7時10分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：竹内会長、陸川副会長、岡田委員、尾崎委員、鹿島委員（オンライン出席）、桐山委員、高橋委員、竹内委員、松岡委員、陸川委員、欠席2名

・事 務 局：中郷区総合事務所 高波所長、加藤次長、丸山市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長併任）、桐山地域振興班長、

津島地域振興班主事、恩田総務班長、高橋産業建設業務窓口班長、早川税・市民生活班長、渡部福祉班長、野坂教育・文化班長

新潟大学堀籠ゼミ 堀籠准教授、学生 3 名

8 発言の内容（要旨）

【津島主事】

会議の開会を宣言。

上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内会長】

会議録確認を鹿島委員と桐山委員に依頼。

報告事項に移る。新潟大学堀籠ゼミ“さとまる電鉄”の活動報告について、事務局に概要説明、“さとまる電鉄”に今年度の活動の報告を求める。

【津島主事】

新潟大学堀籠ゼミと中郷区の連携は、新潟大学が事務局となっている「新潟地域連携コミュニティ」を通じて、令和 3 年度末に、堀籠准教授から地域課題・探求学習の話をいただき、三ツ屋町内会を候補として提案したことをきっかけに連携を始め、3 年目の活動となる。令和 4 年度は、関係者との顔合わせや、情報交換などをメインに行った。成果物として、国登録有形文化財である二本木駅の魅力発信として、ポスターの作製が行われた。令和 5 年度は、中郷区及び二本木駅の地域戦略を中郷区内の活動団体と検討するワークショップを 2 回開催し、各グループで具体的な事業案と戦略を考え共有を行った。11 月には、地域協議会での活動報告と、はーとびあ中郷で開催された中郷区文化祭で活動報告の展示物を掲載した。

【新潟大学堀籠ゼミ 学生 3 名】

資料No.1 に基づき報告。

【竹内会長】

忙しい学生生活の中、中郷区に足を運び、協議しながら事業を計画していただき感謝する。2 回の訪問では理解しきれないところもあったと思うが、事業提案をしていただいたことは我々にとっても今後の糧となる。実行部隊として地域と一緒に取り組んでいきたいと思う。10 回程度中郷区に来ると、中郷区に住みたくなると思う。ぜひまた来ていただきたい。

【岡田委員】

(中郷区まちづくり振興会理事長の立場で) 活動開始時の 2 年前から共に活動している。私たちが考えている以上に地域を愛していただき感謝する。次年度の事業も、私たちも出来る限り協力をする。プライベートでもぜひ中郷区に来ていただきたい。

【加藤次長】

地域に入って学んでいただいたことは素晴らしいことだと思う。昨年の新大祭で「地域連携ブース」を新しく設けたと情報を得た。今後の活動で、学園祭などで中郷区を発信する機会が実現できるのであれば、学生の皆さんの学びも広がると思う。発信する際に声かけをいただければ、特産品を持って応援に行けると良いと考えている。検討事項に加えていただきたい。

【高波所長】

提案いただいた事業の予算化については、必要性などを議論しこれから市議会に予算案を提出するところであり、結果をお伝えすることができない。提案事業は素晴らしく、今年度の二本木駅鉄道まつりで皆さんの活躍も見ていた。昨年度の二本木駅鉄道まつりでは、中郷区まちづくり振興会理事長が大名となり二本木駅前で大名行列を行ったが、今回の提案は学生目線の提案であると感じた。予算化できるかは未定だが、予算化されれば実施に向けてサポートしたいし、予算化されなくても再来年度に向けて地域と対話しながら事業を磨き上げてほしい。社会人になるうえで、良い経験を得られていると思う。中郷区のファンとしてまた訪れてほしい。

【新潟大学 堀籠准教授】

中郷区での活動が 3 年目になり、今年度のゼミ生も中郷区の皆さんと交流し学ぶ中で、恩返しが出来ればと思い一生懸命活動していた。次年度は新しい学生が後を引き継いで事業を充実させていくことを考えている。私も、今回のメンバーも、中郷区を第 2 の故郷として引き続き関わっていきたい。

【竹内会長】

次年度の学生に引継ぎ、今後の中郷区を見ていただきたい。

協議に移る。自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、地域協議会が提案した地域独自の予算事業 2 件のうち、最初に「(仮称) さとまるバスの運行による検証事業」について、事務局に説明を求める。

【桐山班長】

資料No.2 に基づき報告。総合事務所だよりの号外でこれまでの経緯と地域住民の助け合いによる運行の要点を中郷区の住民向けに周知した。2 月中旬にダイヤや具体的な乗り方を決定し、同様に総合事務所だよりの号外でお知らせする予定。

【竹内会長】

4月1日から始まる地域住民の助け合いによる運行は、地域協議会がこれまで協議した内容をまとめたものである。事務局の説明のとおり、総合事務所だよりの号外で周知をしたところだが、利用者は高齢者であることから、説明が足りない点が出てくると思う。その点は、町内会長や民生委員児童委員に協力いただき、まずは検証運行に協力いただいた人が利用しやすい環境を作り、そこからロコミで利用人数を増やしていきたい。中郷区まちづくり振興会が中心となり、今後調整をしていく。その中で地域協議会とも共有しながら春からの運行に向けて創り上げていきたい。先日、中郷区まちづくり振興会が地域住民の助け合いによる運行を行う運転手と打ち合わせを行ったとのことである。着々と進めていただきたい。

【岡田委員】

(中郷区まちづくり振興会理事長の立場で) 事務局や竹内会長の説明のとおり進んでいる。車両も目鼻がついてきた。運転手との意見交換も踏まえて今後も詰めていく。3月には試験運行もあり、ペースを上げて進めていきたい。

【竹内会長】

この件について質問はあるか。(なし)

次に、もう1つの地域独自の予算提案事業「子どもの い～場所開設事業」について、事務局に説明を求める。

【津島主事】

資料No.3、4-1、4-2に基づき説明。アンケートの対象を参加した子どもと、保護者に設定した。参加していない子どもを対象としない理由は、「なぜ参加しなかったのか」が参加していない子どもに聞きたい事項だと考え、その内容であれば保護者に問いかけることで把握できると考えたため、対象外とした。実施方法は、参加した子どもには、今後行う開設日に配付し、その場で回答を回収する。保護者には学校経由で配付、回収とし、フォームによる回答も出来る環境にしたいと考えている。

【陸川委員】

(中郷区まちづくり振興会理事の立場で) 中郷コミュニティプラザでの開設時は、これまでの開設日と異なり、遊具を用意した。これまでと違った子どもの様子を見ることができて良かった。他の利用者もおらず、ホールの扉を開けてホールと廊下を走ることもできた。中郷コミュニティプラザを開設場所とする際は、他の利用者と被らないようにしなければならないと思う。尾崎委員がダンスをすれば良いと思い音楽を流したが、子どもがすぐに踊りださなかったことは残念だと感じた。これまでは遊具を用意しないというコンセプトであったが、中郷コミュニティプラザには遊具が何もないため、用意した方が良いのかと感じた。

【尾崎委員】

何が何でも全員が同じ遊びをするのではなく、子どもたちに選択肢があって良かった。

【竹内会長】

夏に体育館で遊ぶのとは違った感覚であったと思う。子どもたちの表情を見ながら様々なことに対応できると良いのではないか。

遊具は誰が用意したのか。

【陸川委員】

(中郷区まちづくり振興会理事の立場で) 総合事務所職員が用意した。

【竹内会長】

今後も遊具を用意する必要があるのであれば、新しく購入せずとも家にある物を使うなど案を出しながらみんなで作っていけると良い。

次年度に向けたアンケートについて、事務局の説明のとおりに行いたいですが、項目について改善点はあるか。

【陸川副会長】

保護者向けのアンケートで、保護者が思う「子どもの居場所」は何を求めているのかを率直に聞けたら良いと思う。どのような場所がいかなど似たような質問はあるが、例えば「文化的」や「運動的」など求めるものを聞けたら良い。

【桐山委員】

私も陸川副会長と同意見で、参加しなかった理由にもう一步踏み込めると良いと考える。ちょっとした解決できるような理由であれば、参加者が増えるのではないか。

【竹内会長】

(中郷区さとまる学校理事長の立場で) 中郷区さとまる学校が行っている地域独自の予算を活用した事業でも、保護者と子ども向けにアンケートを取っている。参加した子どもは帰宅後に保護者に感想を伝えて、保護者もそれを聞いてアンケートに回答してくれている。

参加していない子どもの保護者がどのような思いで回答してくれるのか、最も聞きたいことへの回答がないのではないかとも思うが、フォームによる回答を用いることが回答を得るのに有効となるのではないかと感じている。スマートフォンで打ち込むのであれば回答を得られる可能性がある。参加していない子どもの保護者からの声も聞けると良い。子どもの居場所の必要性を検証し、今後も継続するとなると実施者の負担も続くと思うが、見極めてやっていく必要がある。

【高橋委員】

アンケートの項目は良いと思う。今後どのように進めていくのか参考になる。このアンケートの集計をいつ頃やり、どのように次に結び付けていくのか。今年度の残りの開設もあるが、次年度の開設に向けて進化させていきたい。次年度の開設までに、アンケートの分析を間に合わせたい。できるだけ多くの子どもに参加してもらうための周知も必要。

【竹内会長】

年度が替わると新1年生が入ったり6年生が卒業したりして、情報が薄れる可能性がある。しっかり周知していきたい。中学校の部活動地域移行が進む中で、部活に入らずに自分の好きなことをやる子もいる。そういった子どもの地域での居場所のニーズが増えてきているように感じている。すぐに手を広げるわけではないが、そのことも念頭に置きながら進める必要がある。

【竹内委員】

(さとまるスポーツクラブ代表の立場で) 中学校の部活動は令和8年度までは移行期間である。説明会が来週あり、参加予定である。移行期間である現在、指導者に話を聞くと、竹内会長の発言にもあったように部活動に入らず自分が好きなことをやりたいという子どもが増えてきているようだ。そのような状況であることを踏まえ、様々なことに興味を持てる居場所とするのも一法だと考える。体を動かさなくなったり、好きなことばかりで宿題をしなくなったりするのではないか。みんなで一緒に協力しながらやっていく場所になると良いと思う。

【竹内会長】

アンケートの項目について、具体的な改善点はないか。

【陸川副会長】

この事業を始めるきっかけとなった保護者との座談会で、外遊びが少ないため自然の中で遊んでほしいと話される方もいれば、宿題だけやってきてほしいという方もいた。ただ子どもを預ける場所ではないということを前提に、保護者がどういう居場所になってほしいと思っているかを聞けると良い。「どんな場所に預けたい」や「ここに預けたら子どもが成長して帰ってきた」といった、どんな目的をもった場所が良いかを聞ける文言が入ると良い。

【加藤次長】

保護者向けアンケートのQ3-1「お子さんは「子どもの い～場所」に何回参加しましたか。参加した理由・参加しなかった理由は何ですか。」について、案はチェックを入れるのみとなっているが、さらに理由を書いてもらうこととしてはどうか。例えば、親の仕事の都合なのか、家庭の事情なのか、などチェックの他に記述としてはどうか。

【竹内会長】

今ほどの加藤次長の提案のとおりで良いか。(頷きにより承認) そのようにする。その他意見はあるか。(なし) 次回の子どもの い～場所は2月17日(月)に開設される。委員の皆さんにも参加いただき、アンケートはアンケートとして実施するが、直接子どもや保護者にも話を聞いて、地域協議会や事務局に伝えていただくことも成果に繋がる。

次に、令和6年度中郷区地域協議会活動報告会について協議する。事務局に説明を求める。

【津島主事】

資料No.5に基づき説明。

【竹内会長】

今ほどの説明のとおり、これまでと同じ2部構成である。第1部の令和6年度地域独自の予算事業「(仮称) さとまるバス」の運行による検証事業のうち、令和6年度地域独自の予算事業提案までの経緯は私が説明する。検証事業の説明は、地域住民の助け合いによる運行を実施する中郷区まちづくり振興会理事長でもある岡田委員から説明していただきたい。もう一つの令和6年度地域独自の予算事業「子どもの い～場所開設事業」は、村越委員が説明することとし、本日欠席であるが、事前に了承いただいている。この2点について良いか。(頷きにより承認) 地域独自の予算事業概要について事務局が説明後、レゴブロックワークショップについて私が説明する。総合司会は、桐山委員にお願いする。休憩後の意見交換会について、テーマ設定をするか皆さんに意見を聞きたい。私としては、テーマ設定なしにフリートークとしても良いが、これまで全世帯アンケートを取り、活性化の方向性を定めて、地域住民の助け合いによる移動支援サービスと子どもの居場所について協議してきたところであるから、この2点について意見をお聴きした方がよいと思いつつ、このテーマは高齢者や子どもが中心となる話であるから、活動報告会の主な参加者となる町内会長や各種団体の代表の反応を見てフリートークとして進めた方が良くとも考えている。意見交換会の全体司会を、私もフォローするが、尾崎委員にお願いしたい。このようにして良いか。(頷きにより承認) 意見交換会のテーマ設定について意見を聞きたい。皆さんの方で設定してほしいテーマがあれば設定して良いと考える。

【高橋委員】

地域の皆さんとの意見交換であるから、基本はフリーとすべきである。こちらであまりにもテーマを絞り、それに関する意見しか出せないのかと思われるよりは自由な意見を聞きたい。あまり意見が出てこないようであれば、1部の内容から話題提供するのが良い。

【竹内会長】

以前の活動報告会では雪や消雪パイプに関する意見が出てきていたが、そこで行政の意見を聞くような活動報告会にはしたくない。尾崎委員と事務局と相談し、

ある程度のシナリオがある状態で進めていく。意見交換会の際には委員にも発言を求める場面があると思う。協力をお願いしたい。第1部の報告を行う岡田委員、村越委員は事務局と打ち合わせをしながら資料作成を進めていただきたい。時間のない中での作成になると思うが、時間を合わせて進めてほしい。レゴブロックワークショップの資料は私が作成するため、事務局に確認をお願いしたい。

【高橋委員】

全体のおおまかな時間枠を設定し、示していただきたい。

【竹内会長】

時間配分について、資料を作成する中で事務局と相談していく。2月の地域協議会について、定例の第4月曜日に行うと活動報告会直前となってしまうことから、2月の地域協議会は行わないこととし、2月17日（月）からの週に報告会の準備としてリハーサルのような形式で行いたい。2月20日（木）午後6時から、はとびあ中郷で行いたいと思うがどうか。（反対意見なし）これまで、活動報告会終了後に委員からの要望により勉強会を開催していたが、私からも皆さんからもテーマの提案がないことから、勉強会を行わないこととする。大潟区地域協議会から、活動報告会の傍聴と中郷区さとまる学校の取組を学びたいと連絡が入っている。大潟区地域協議会、事務局と調整し、活動報告会の後に意見交換の時間を取りたいと思うがどうか。皆さんに出席いただきたい。勉強会については、年間通して学びたいテーマがあったら都度申し出ていただきたい。全てはできないと思うが、別日に設けるようにしていく。お金のかかる研修ではなく、日々の協議の中で「行政からこれについて話を聞きたい」や「他の区の活動を参考にしたい」など、そのような勉強会であればいつでもできる雰囲気になりたい。

【津島主事】

第2部のうち、地域活性化の方向性について説明する担当者を決めていただきたい。資料は令和4年度に作成しており、改めて確認してもらうための説明となる。

【竹内会長】

地域活性化の方向性の説明は、陸川副会長にお願いする。2月20日（木）の集合時間は改めてお知らせする。

その他に移る。地域協議会だよりの発行について、事務局に説明を求める。

【津島主事】

地域協議会だより66号を発行した。編集委員会1班に協力していただいた。

【竹内会長】

3月の発行は編集委員会2班になる。活動報告会の内容が中心となると思われる。編集をお願いしたい。

委員の皆さんから何かあるか。(なし) 出席の総合事務所職員から発言等あるか。

【津島主事】

配付物の確認

【竹内会長】

先ほどの協議のとおり、2月の地域協議会は活動報告会の準備として2月20日(木)午後6時から、はーとぴあ中郷 研修室で行う。例年より雪が少なく雪を活かしたイベントの開催も危ぶまれてはいるが、これから2月になり降雪もあると思う。普段の生活でまた意見があれば寄せていただきたい。

(オンライン出席している鹿島委員に)3月1日(土)に現地で参加できるかはまだ分からないか。

【鹿島委員】

まだはっきり分からない。2月は日本にいる予定。

【竹内会長】

以上で、本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165) E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。